

あかぎれ

からからに干からびた手の甲が
びしりと音立てて口を開け
甲高い女の狂った笑い声とともに
赤い唇をにやりとさせる
それは周囲より湿ってはいるが
異様になまなましい肉色で
そこからしみ出した赤い涎は
八方に樹枝を伸ばして乾いた大地に
わずかな恵みを施すが
それもすぐ黒く干からびてしまう

(1984.12.16)